

令和3年度 第1回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 令和3年7月29日（木） 午前10時～午前11時

場 所 京都市生涯学習総合センター 3階 会議室

出席委員	岡本崇紀	委員	
	勝木清隆	委員	
	金柅純子	委員	
	岸本夏海	委員	
	北村光司	委員	
	下村貞之	委員	
	高橋利華	委員	
	豊田まゆみ	委員	
	日比野和雅	委員	五十音順

欠席委員	阪本みゆき	委員	五十音順
------	-------	----	------

傍 聴 人 なし

1 開会

- (1) 向井所長の挨拶
- (2) 会議出席者自己紹介
- (3) 摘録署名人に勝木委員長を選出

2 議事

- (1) 令和2年度視聴覚センター事業報告
「令和2年度視聴覚センター事業報告」の説明を行った。
- (2) 令和3年度視聴覚センター事業計画
「令和3年度視聴覚センター事業計画」の説明を行った。
- (3) その他
行財政改革による予算削減を踏まえ、視聴覚センター事業での削減分と運営委員会委員の減員（10名→8名）について説明を行った。

[委員からの主な質問や意見など] (○は委員, ・は事務局)

- 京都市の財政危機はかつてない状況で, 学校現場でも予算削減の取組が強く求められている。視聴覚センターは条例を根拠に設置されているが, 存在を知ってもらうことは重要である。

今年度京都市立幼稚園全園で YouTube 配信を行って大きな反響があった。お金をかけずに手間暇をかけて, 例えば YouTube を活用するなどの取組を考えていく必要があるのではないか。短いものは簡単にできるし, 幼稚園でも保護者向けにアップしている。

予算が厳しいことは絶対的に変わらないので, その状況でどんなことができるか, SNS の活用などを検討していく必要があると思う。

- 高校でもコンサートなどのイベントが多く中止になって発表の場が失われている。そういった状況の中で, アスニーでコンサートの機会をいただけたことがあり大変感謝している。高校の研究会が解散となり, 次回の運営委員会からは参加しないことになるが, 事業などいろいろな場面において, 今後とも高校として協力していきたいと考えている。

先程の話にもあったように, 予算は削りつつも中身で市民の皆さんに喜んでもらえることを行うべき。京都は文化の中心地となるところだと思っているので, その発信をきちんと位置付けられるような活動を進めていただけたらと思う。

- 中学校ではNHKアナウンスコンクールをやっていたいて, 今年は1年越しで開催することができた。新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施等により, 中学校では部活動が制限されている中で, 様々な関係者の御協力を得てコンクールが実施できたのは大変ありがたかった。

先程の話でもあった, YouTube で発信していくという例では, K B S 京都と京都府警のコラボで自転車マナーのCM募集を年1回実施されている。例えば「アスニーの30秒CMを作ろう」といったコンクールをすると, 中学生は取り組みやすいと思う。動画作成は技術の授業でもしているが, 放送部や映像部といった生徒に対して映像機器での動画編集の講習会などを夏休み期間中に開催していただけると参加しやすいと思うので, 検討していただきたい。

- 私も元教員で, 定年退職後に視聴覚センターで働いていたことがある。当時と比べると, コロナ禍と財政危機のダブルパンチで取組が滞っており, にっちもさっちも行かない状況であるとの印象を受ける。そういった状況の中でも, 今

までの取組で残すべき事柄はしっかり残し、先程から発言があったようにお金のかからない方法で発信していくことが必要。学校では子どもたちにパソコンが与えられているので、この状況を何かに活かせないか。視聴覚センターが音頭を取って、何らかの取組を考えてくれると各学校も有難いのではないか。今後の視聴覚センターのより一層の取組を期待している。

- これまでの話を聞いていて予算が厳しい中でできることは、SNSを使うことが重要ではないかと思う。方法としてはYouTubeの他にもTikTokというものがあり、それも活用できればよいのではないか。TikTokは動画を作成・編集して投稿することができるアプリだが、20秒ほどなので大学生でも手軽に作りやすい。何より若者に広く普及しているので、視聴覚センターのPRに役立つのではないか。小さい子どもがゆりかごでタブレットを見ているような時代なので、SNSを有効活用して、視聴覚センターで行っている事業が広く周知されるよう願っている。

- 私が所属する団体は高齢者が多いため、スマホ教室を開催する取組などを行っている。お話を伺っていて、YouTubeやSNSといった話に世代の格差を感じる。今の状況は財政危機を何とかしていくことが一番大きな課題であると思うが、事業計画を見ていると、上映している古い映画にも必ず多くの参加者がいるということは、アスニーが大切なところであるということを示しているのではないか。視聴覚センターで映画を借りて地域で映画を上映する、ということを以前から行っているが、このような取組は今後とも継続していただきたい。

人権映画の件だが、映画の内容は、昔は同和問題を取り扱ったものが多かったが、今回導入された映画はどういう題材の映画にされたのか。今の時代は人権といっても様々な課題があると思うため、今後どのように進めて行くのかお聞きしたい。

- ・ 今お話しいただいたように、人権といっても様々な内容のテーマがあるが、今回導入した映画は、パラリンピック・拉致問題・いじめ・障害者・外国人など、幅広く人権問題をカバーできる内容となっている。予算の都合上、毎年定期的に購入はできないが、生涯学習部に在籍する社会教育主事とも連携して、より効果的な人権映画タイトルの選定に努めてまいる。昨日開催した人権映画の試写会も数年ぶりに開催できたが、こういった機会を継続的に提供できるよう努力していきたい。

- NHKではこれまでの放送という面だけでなく、新たな地域サービスを模索している。いわゆるネット社会の中でどのように展開して行けるのか、どのよう

な地域サービスと結び付けられるのか、今まさに企画・検討をしている段階である。これまでは「放送コンテスト」という放送の枠組みの中での取組が多かったが、今までのお話を聞いているとSNSやYouTubeで発信していく内容が多いので、そういった面での取組が必要かと感じた。地域サービスの企画をNHK内で全国募集しており、NHK全体としてそうした取組を進めて行く方向性なので、何らかの御協力ができれば、と考えている。皆さんから「こんなことをしてほしい」という提案があれば、お声掛けいただきたい。

○ 私立幼稚園では独自に実施している研修がたくさんあるが、数人の先生が集まってYouTubeやSNSで保護者向けに発信している事例がある。大がかりなことはせずに、幼稚園でこじんまりと集まって色んなものを作り上げている。私が先生になった数十年前は、私立幼稚園研修でアスニーの16ミリフィルム講座を1コマ行っていたりと盛んであったが、今は16ミリフィルム自体が遠い存在になっている。スマホが身近になって手軽になった現状では情報発信が簡単になっているが、若い先生のアイデアと管理職のアイデアに乖離がある。会議なども今はすべてZoom（Web会議サービス）でやっているが、若い先生は自然にこなしている。若い人から年配の人まで作業ができるような、幼稚園の先生が楽しい時間を過ごせるようないい企画を発信していただければ助かる。

○ 各委員からのお話をお聞きして、予算が削減される現状はどうしようもないが、一方で、視聴覚センターが実施している取組には一定の市民ニーズがある。視聴覚センターの存在やどんな取組をしているのかということをお金をかけずにいかに知ってもらうかが大事ということだと思う。

私は昨日の人権映画試写会に参加したが、実際に見て、学校での人権懇談会でどのように活用しようかと考え、視聴覚センターのホームページで今はどういった資料があるのか確認した。そういう形で学校の先生方は夏休みの時期に資料を探す傾向がある。視聴覚センターのホームページの入口を上手く活用して新しい発信だけでなく、これまでの取組のアーカイブなどもあれば良いのではないか。

市民の認知をどう広げるか、魅力をどう発信していくか、デジタルばかりに走るとそれを受け取れない年代の人もいるので、「まなびすと」のような紙媒体や町内の回覧板で印刷物を配布するなどの方法も必要だと感じている。委員の皆さんから言っていただいた意見を参考に今後の取組を検討していただきたい。

3 閉会